

生き生きと活動する児童の育成

～コミュニケーション能力の向上をめざす英語科学習のあり方～

I 研究の内容・方法

(1) 教育課程の実践と改善

- ア 昨年度作成した教育課程をもとに授業実践をし、継続・修正
- イ 「読む」「書く」の位置づけと学年系列
- ウ H R T・A L T・J T Eとの有効な連携方法
- エ 評価方法や内容

(2) 教師の授業力向上のための取り組み

- ア 指導方法の工夫・改善
- イ 児童の興味・関心等学習状況の把握
- ウ 先進校の視察，講師を招いての研修会
- エ 教師のクラスルームイングリッシュ向上のための研修

(3) 学習環境の整備

- ア 英語活動がより楽しく，親しみやすくなるような環境条件の整備，資料制作
- イ ゲーム的活動などのアクティビティがさらに充実するような，教材・教具の制作
- ウ 活動を充実させる電子機器等の活用法研修
- エ 英語ボランティアとの連携の工夫

(4) 児童の実態調査

アンケートの調査と分析：5月，1月

(5) 研究の方法

<全体研究>

- ・研究授業を行い，研究主題の追究を行う。(T C要請)
- ・部会研究の内容を交流する。

<部会研究>

- ・カリキュラム部と授業づくり部を置く。

【カリキュラム部】 教育課程の見直し，「読む」「書く」の学年系列

【授業づくり部】 指導方法，指導形態の工夫 自己評価方法や評定について

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・山梨市版小学校英語科学習指導要領を作成することを通して、何をどこまで指導してらよいか、学年の系統性も明確になってきた。
- ・授業研究だけでなく、夏季英語科研修、ブロック研究、授業参観などに向け教師が授業内容を計画実践することが、教師の授業力向上につながった。そのことが児童の意欲につながっている。
- ・3年生以上は今年度「書く」活動内容を工夫しながら授業で指導した。児童の意欲関心を高める結果になったことが、アンケート結果からも伺える。

2 課題

- ・英語科の学習を通して、学習中のコミュニケーション能力が高まっている傾向にあるが、個人差があったり、他の学習や普段の生活に生かしていない部分もあったりするので、今後も指導を継続していく必要がある。単元の構成「聞くドリル→話すドリル→コミュニケーション活動」をさらに研究して、効果的な指導に結びつけていきたい。
- ・今年度作成した「各学年年間指導計画」「単元別学習指導計画」に基づいて指導し、35時間のモデル授業案を作成していく。
- ・今年度3年生以上で、「書く」活動に取り組み始めた。児童が生き生きと意欲的に取り組む姿がみられた。来年度は、単元ごとの言語材料である単語の選択性や選択の系統性を考えながら指導していく。
- ・「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能のバランスを考えながら、単元構成を決め検証していく。
- ・評価 評定について

Ⅲ 成果物

- 1 研究授業案 5年 英語科「メリークリスマス どんなプレゼントが欲しい？」
- 2 山梨市版 小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】
英語科目標 視点別各学年の目標と内容
各学年の目標と内容（基礎的言語事項）一覧表 評価の視点と規準
- 3 英語科年間指導計画 各学年単元一覧表
- 4 各学年 単元別学習指導計画例
- 5 ライティングプリント ふりかえりカード

(研究主任 廣瀬明子)